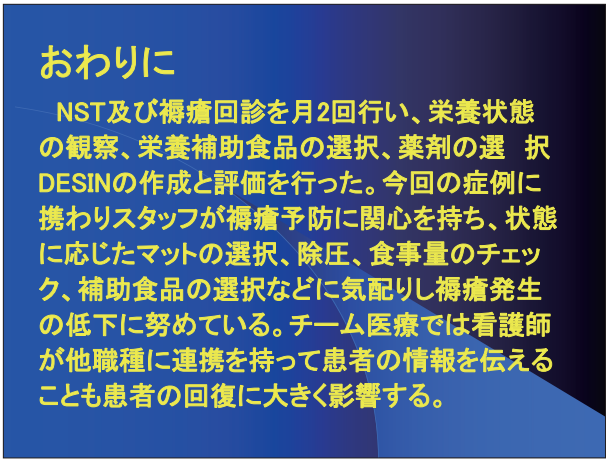
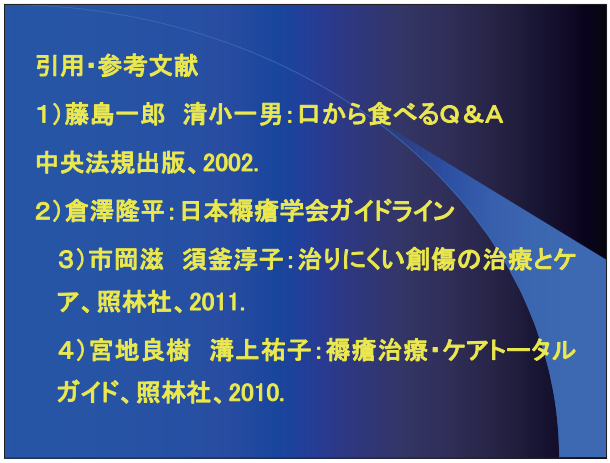
た。妄想の訴えが少なくなってきたことから患者様と個別のかかわりが必要だと考えます。

おわりに



NST 及び褥瘡回診を月 2 回行い、栄養状態の観察、栄養補助食品の選択、薬剤の選択、DESIN の作成と評価を行いました。今回の症例に携わりスタッフが褥瘡予防に関心を持ち、状態に応じたマットの選択、除圧、食事量のチェック、補助食品の選択などに気配りし褥瘡発生の低下に努めています。チーム医療では看護師が他職種に連携を持って患者の情報を伝えることも患者の回復に大きく影響します。



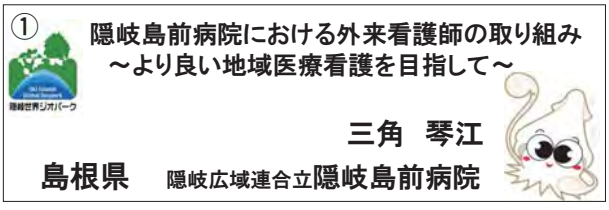
引用・参考文献

1）藤島一郎　清小一男：口から食べる Q&A
中央法規出版、2002.
2）倉澤隆平：日本褥瘡学会ガイドライン
3）市岡滋　須釜淳子：治りにくい創傷の治療とケア、照林社、2011.
4）宮地良樹　溝上祐子：褥瘡治療・ケアトータルガイド、照林社、2010.

演題 100

隠岐島前病院における外来看護師の取り組み ～より良い地域医療看護を目指して～

発　表　者　三角　琴江　（島根県：隠岐広域連合立隠岐島前病院）
共同研究者　佐藤　優子、松浦　幸子、白石　裕子、白石　吉彦



はじめに

日本海に浮かぶ隠岐諸島は島前と島後に分かれています。島前は３つの小さな島々、西の島、中之島、知夫里島からなり人口6,084人、高齢化率42.1％です。当院は、西ノ島町に位置し島前の中核医療機関を担っています。

③隠岐島前病院

・内科系総合医　6人
・看護師　31人
・薬剤師　1人
・作業療法士　3人
・理学療法士　1人
・臨床検査技師　1人
など

病床数：44床
- 20床（一般）
- 8床（医療型）
- 16床（介護型）

全職員数　計77名

ベッド数は44床で一般20床、療養22床を有しスタッフは内科系総合医、看護師、薬剤師、療法士、他、コメディカルスタッフを含め全職員数77名です。

④ 当院の外来看護師（14名）の役割

- 内科・外科・小児科常勤の全ての科にとらわれず対応
- 整形外科・眼科・精神科・産婦人科・耳鼻咽喉科の非常勤の専門外来に対応
- 訪問看護24時間体制
- 2交代制
- 平日の夜間、休日は療養病棟・救急外来対応

⇒様々な場面でスムーズな対応、判断力が要求される

看護師31名は、病棟17名、外来14名に配置され、訪問看護も24時間体制を整えています。勤務は２交代制で、外来看護師は診療介助のみでなく平日の夜間、休日はさらに療養病棟の患者さんを受け持ちながら、救急外来も担当しています。外来看護師は救急や外来受診時など、様々な場面でスムーズな対応、判断力が要求されます。

⑤ 【目的】

- 日々の業務に追われ満足される看護が提供出来ていない現状があった
- 2011年東日本大震災にて気仙沼在宅支援ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄへの参加（当院より3ヶ月間）において充実したｶﾝﾌｧﾚﾝｽ、短期支援による継続的なｹｱｰを可能にしていた事を学ぶ
- 平成24年5月よりｽﾀｯﾌ会を始めた（ｽﾀｯﾌ間の情報を共有し患者さんの満足度を高める為1年が経過　）
- 今回ｱﾝｹｰﾄ調査を施行し1年間の取り組みを評価

目的

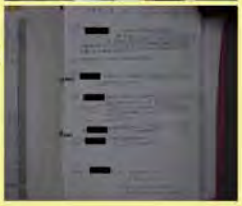
しかし、患者さんの対応や、日々の業務におわれ、満足される看護が提供出来ていない現状がありました。2011年に東日本大震災が起こり当院よりも３ヶ月ですが気仙沼市、在宅支援プロジェクトに参加させて頂きました。その中で、患者さんへの対応など、マネージメントが大変すばらしく実践されていたこと、充実したカンファレンスが行われ、短期支援による、継続的なケアを可能にしていたことを学びました。

その経験をもとに当院における取り組みを検討しました。

そして、H24年５月よりスタッフ間の情報を共有し、患者さんの満足度を高めることを目的とした外来スタッフ会を始めました。一年が経過した現在を振り返り、満足される、よりよい看護を提供していくため、アンケート調査を行いましたのでその結果をここに発表させていただきます。

⑥ 【１年間の取り組み】

- 月曜日から金曜日外来業務終了後17時にスタッフにより15分程度の意見交換を実施
- リーダーが状況に応じて各スタッフに声かけして全員が参加出来る様配慮
- 各科で気になった患者さんの情報提供
- 情報を全員で共有・スタッフノートに記載
- 必要に応じて医師・検査技師・薬剤師事務の参加



一年間の取り組み

月曜から金曜まで、毎日、外来業務が終わる17時頃より日勤の外来看護師全員が参加する目標15分以内の外来スタッフ会を始めました。その日のリーダーが状況に応じて、各ナースへ声かけし、外来日勤者が、出来るだけ参加出来るよう配慮します。内容は主に、各々の科で担当して気になった患者さんの情報提供をし、業務内容においての問題や、改善策など話し合い、全員で対応方法を検討し外来スタッフ会ノートに記載していきました。必要に応じて、医師、薬剤師、事務などの参加も依頼しました。当日、参加していない看護師は、勤務開始前に、記載内容を確認し、業務に就きました。

⑦ 【方法】

●期間：H25年6月10日～17日

●対象は外来スタッフ会
参加者18名
（医師・看護師・薬剤師・事務）

●アンケート自由記載方式

外来スタッフ会を始めてのアンケート
H24/5月より情報交換の場としてカンファレンスを行ってきました。
一年が経過した現在、このカンファレンスを振り返りさらに発展したカンファレンスが行えるよう外来スタッフのご協力のもと検討していきたいと思っています。
そこで、外来スタッフ会を始めて（参加して）のご意見をお聞かせ下さい。

①よかったと思う意見：

②悪かったと思う意見：

③こうしたらもっと良いと思う意見：

④カンファレンスの進め方意見：

⑤医師・薬剤師・事務など他職種参加したら：

⑥その他（外来業務においての自由なご意見をどうぞ）

方法

アンケート調査で期間はH25年６月10日から６月17日まで、対象は外来スタッフ会参加者18名、自由記載方式としました。

⑧ 【結果】

●回収率100%

《成果》

●患者さんの様々な情報をスタッフ間で共有出来た

●共通意識を持つ事で仲間意識が深まった

●統一した看護で患者さんとの信頼関係を築く事が出来た

●夜間、休日の対応もスムーズになり患者、家族に声をかけやすくなった

⑨

●診察の待ち時間に患者さんの思いを聞き診察に繋げる事が出来た

●他職種参加からは違った視点からの情報やｱﾄﾞﾊﾞｲｽなど協力を得られた
⇒チーム力の向上に繋がった

●どんなささいな事でも相談しやすくなり問題解決の場となった

結果

回収率は100％でした。今回の調査から（成果）として、患者さんに対する様々な情報及び問題を、スタッフ間で共有することができ、共通意識を持つことが出来た。仲間意識が深まり、統一した看護で患者さんとの信頼関係を築く事が出来た。夜間、休日の対応もスムーズになり、患者さんや家族に声をかけやすくなった。診察の待ち時間に、患者さんの思いを聞き診療につなげる事が出来た。他職種参加のスタッフ会では違った視点からの情報やアドバイス、協力も得られ情報共有することでさらに、チーム力の向上に繋がった。どんな些細なことでも相談しやすくなり、問題解決の場となった。などの意見が、多くありました。

⑩

《課題》

●目標時間に近づけなかった

●他職種参加型の会が少なかった

一方、（課題）として、外来スタッフ会の時間目標は15分以内を目指していたが実際は平均30分以上かかっていたこと。また、時間調整も難しく他職種参加型の会が少なかった。との意見もあり今後検討していく必要があると考えられ

ました。

⑪ 【結論】

●他職種との連携を深める
⇒多方面からの協力体制を図る

●院内全体のチーム力の向上
⇒患者さんとの信頼関係に繋げる

●継続した寄り添う看護
⇒安定した在宅生活を支援

結論

今後、さらに満足される、より充実した看護を提供するために、他職種との連携を深め多方面からの協力体制を図っていく必要があります。そして、院内全体のチーム力向上が患者さんとの信頼関係につながり寄り添う看護を継続することで安心した在宅生活を送れることと思います。

⑫ 【最後に】

アンケート調査を実施して・・・

●1年間を振り返る良い機会となった

●少人数でも実施する事でｽﾀｯﾌの意識づけができ定着してきた事が実感出来た

●ｽﾀｯﾌ間のｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝも増え働きやすい職場作りへと繋がった

最後に

今回、アンケート調査を実施したことは一年間の取り組みを振り返る、よい機会となりました。最初は、ぎこちない外来スタッフ会であり、毎日行うことは容易でなく、急患対応、業務延長により実施出来ない時もありました。しかし、小人数も、実施していく事でスタッフにも、意識づけられ定着していきました。また、スタッフ間のコミュニケーションも増えたことは働きやすい職場作りへと繋がったのではないかと考えます。

ご静聴ありがとうございました。

⑬